

# 東舞子

2015/9/30 (10月号)

神戸市立東舞子小学校

平成27年度学校だより

<http://www.kobe-c.ed.jp/hmi-es>

## 「精農は土をつくる」

つい先日、9月27日は中秋の名月、翌28日はスーパームーンでした。澄み渡った秋の夜空に輝く月をご覧になった方も多いことでしょう。お月見には、各地方でいろいろな風習があり一様ではありませんが、豊かな秋の実りに対する祈りや感謝の気持ちが込められているところは共通でしょう。四季をもつ我が国において、秋の持つ意味は大変重要です。春から夏にかけて育てられ鍛えられてきたものの一定の成果が表れる時季だからです。学校においても、2学期は校外学習、自然学校、修学旅行、音楽会等々の数々の行事とともに、日々の学習、スポーツ活動などでも力を発揮する重要な時季を迎えます。心も体も文字通り充実する時であると言えるでしょう。ここで、「やって良かった。」とか「できるようになった。」という達成感をもつことが次へのステップになります。大いに認め褒めてあげる場面をつくりたいものです。10月23日(金)のオープンスクール、また11月6日(金)・7日(土)の音楽会には、ぜひご来校くださいまして、子供たちの頑張りに拍手を送っていただきますよう、よろしくお願ひします。

一方、真逆の話になるようにも思えますが、古来、農家には「精農は土をつくる 馱農は草をつくる」という格言があります。豊かな実りは、まず土づくりからということです。人の一生という長いスパンで考えると、小学校期はまだまだ春、たしかに成果を求めたい気持ちは分かりますが、まずは土づくりの時季と考えるべきということです。土づくりには、いろいろなものが不可欠ではあると思いますが、何よりも大切な肥しは「愛情」でしょう。お家の方々からの愛情、近隣・地域の方々からの愛情、そして教師からの愛情などなど、愛情をたっぷり注がれながら、しっかりと耕されることで、良い土はできると思います。目の前の成果も大切ですが、じっくりと土づくりに取り組む構えが、未来に向かう子供たちの健やかな成長を支える豊かな土づくりにつながるのではないのでしょうか。

結論！「頑張ったこと」「できるようになったこと」など、成果は成果としてしっかり認め褒めてあげることが大切ですが、性急に成果ばかりを求めることなく、温かい眼差しでじっくりと成長を見守りましょう。子供は失敗をするもの、失敗もまた糧となるのですから、大らかに受け止めるお家の方の笑顔が、子供たちの最大のサポートとなり、失敗を恐れずチャレンジし続ける人に成長してくれるのだと思います。

## 舞子六神社 “HIGAMAI WALKER” ②

山電西舞子駅から2国を越えて海側にある舞子六神社は、300年以上も前から地元で親しまれている神社です。御影石でつくられたユーモラスな大黒様と恵比寿様が人目をひきます。布団太鼓の巡行も有名で、この10月11日(土)午後7時が宵宮、11日(日)午前9時が大祭となっています。ご都合がつくようでしたら、まだ行かれたことのない方は、覗かれてみてはいかがでしょうか。ちなみに、垂水の海神社の秋祭りも同時期にあります。地元の文化風土を知るという意味で、子供たちには貴重な体験となると思います。

校長 小野晃弘

